



## 社会福祉法人 中日新聞社会事業団

〒460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 中日新聞社内  
TEL: 052-221-0580 (平日10:00~18:00) Eメール: robola@chunichi-shakaijigyo.jp

事業団に関する詳細は  
HPをご覧ください

▶ <http://www.chunichi-shakaijigyo.jp>



2022年度  
第7回

# 東日本復興支援事業

読者からの熱い思いを東北へ!



中日新聞社会事業団の  
マスコットキャラクターでござる。  
お見知り置きを!

### ロボラ

困っている人に手を差し伸べる、  
心優しいコアラ型ロボットヒーロー、ロボラ!  
体には人助けのためのあらゆる機能が搭載されている。  
今日も困っている人のため、寄付金を集めている!

#### 「性格」

とっても温厚で、おっとりした性格。しかし困っている人がいたら、どんなことがあっても助ける! と心に誓っている。こう見えて実はとっても感動屋。しかしロボットなので表情の変化はあまりない。なので体の動きで表現する!

#### 「裏設定〜ロボラの生い立ち〜」

昔ロボラがまだ、ただのコアラだった頃、ひとりぼっちで泣いていたところを、心優しい博士に声をかけられ、助けられた。その博士の意志を継ぐため、ロボットヒーローに大変身! 「今度は自分が泣いている人を助ける番だ!」と決意したロボラは今日も人助けへと出かけていく。

#### 「アンテナ」

頭の上についている黄色いアンテナで、困っている人たちの情報を受信することができる!

#### 「眼」

暗闇でも見える眼で、どんな場所にいる人も助けに行ける!

#### 「耳」

大きな耳で困っている人たちの声を聞くことができる!

#### 「鼻」

本人いわく、『拙者のチャームポイントであります』

#### 「腕」

とっても力持ち! 実はまだまだ隠された能力が…?

#### 「お腹」

優しさがたくさん詰まったポンポコお腹。

#### 「ハートのしっぽ」

ロボラの体で最も柔らかい部分。ロボラのしっぽをもふもふすると、触った人の心も柔らかくなる!

#### 「喋り方〜拙者がオタスケイタス!〜」

ロボットなので、まだまだ言葉は覚えなくて。一生懸命言葉を覚えようとしているが、名古屋の武将の本やテレビをよく見ているので、ロボット口調+妙に古めかしい言葉遣いで不思議な話し方になってしまった。



社会福祉法人 中日新聞社会事業団

ロボラ



# 東日本復興支援事業について

「社会福祉法人中日新聞社会事業団」の本部、各支部へ寄せられた寄付金をもとに、東日本大震災復興に関する事業、ならびに福島、宮城、岩手各県の保健、福祉の向上に関する事業を行う団体に対し、助成を行います。



一般社団法人  
石巻じちれん



一般社団法人  
東北駆け込み寺



特定非営利活動法人  
福島就労支援センター



認定特定非営利活動法人  
市民公益活動パートナーズ



認定特定非営利活動法人  
桜ライン311



特定非営利活動法人  
TEDIC



チャイルドネットジャパン



一般社団法人  
フードバンクいしのまき



一般社団法人  
大熊未来塾

## CONTENTS

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 東日本復興支援事業について         | 1 |
| ごあいさつ                 | 3 |
| 社会福祉法人<br>中日新聞社会事業団とは | 4 |
| 過去の配分実績               | 5 |

### 宮城県

|                       |    |
|-----------------------|----|
| チャイルドネットジャパン          | 7  |
| 特定非営利活動法人<br>TEDIC    | 9  |
| 一般社団法人<br>フードバンクいしのまき | 11 |
| 一般社団法人<br>石巻じちれん      | 13 |
| 一般社団法人<br>東北駆け込み寺     | 15 |

### 福島県

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 一般社団法人<br>大熊未来塾             | 17 |
| 特定非営利活動法人<br>福島就労支援センター     | 19 |
| 認定特定非営利活動法人<br>市民公益活動パートナーズ | 21 |

### 岩手県

|                        |    |
|------------------------|----|
| 認定特定非営利活動法人<br>桜ライン311 | 23 |
|------------------------|----|

|              |    |
|--------------|----|
| 東日本大震災と中日新聞社 | 25 |
|--------------|----|



## 東日本復興支援金に寄せて

中日新聞社会事業団 理事長 河津 市三

あの「3・11」。悲惨な記憶が薄まることはない。被災地の整備が進んだとはいえ、復興は道半ばだ。それでも東北の被災地で復興支援事業に取り組むグループの地道な活動には熱いものがある。そんな熱い想いを支援金という形で応援してきたのが、中日新聞社会事業団が続けている東日本復興支援事業である。中日新聞発行エリアの中部、関東、北陸1都15県の主に読者から寄せられた浄財、支援金だ。

2011年3月11日午後2時46分、マグネチュード9.0の大地震が東日本を襲った。とりわけ岩手、宮城両県には大津波が押し寄せた。2万人近くの死者・不明者。今も復興事業に取り組んでいる多くの人々が親、兄弟、祖父母、孫、友を一瞬にして失った。福島県では原子力発電所のメルトダウンによる放射能漏れで多くの人々が故郷を離れた。風評被害にもいまだ悩まされている。

昨年11月中旬、ほぼ1年ぶりに陸前高田を訪ねた。「奇跡の一本松」で、一昨年支援金を贈呈した復興事業団体「つむぐ」の方と再会。その笑顔に安堵した。復興事業に携わるグループのさらなる活動を応援したい。

### 配分委員の皆さん

|     |       |                    |
|-----|-------|--------------------|
| 委員長 | 河津 市三 | 中日新聞社会事業団 理事長      |
| 委 員 | 寺井 陽一 | 中日新聞社会事業団 理事       |
|     | 榊原 英夫 | 愛知県共同募金会 企画調整課長    |
|     | 近藤日出夫 | 桜花学園大学保育学部 元非常勤講師  |
|     | 川上 知幸 | 金城学院大学社会福祉学部 非常勤講師 |

名古屋市を本社に持つ中日新聞ならびに東京新聞の読者を中心とした企業や個人などから寄せられる善意の寄付金をもとに、本部（名古屋）と4支部（東海、北陸、東京、岐阜）において、児童、心身障害児・者、老人、医療など幅広い分野の社会福祉事業や公益事業の主催、共催、後援、助成金支援の事業を行っています。

児童福祉の分野では、名古屋近郊の愛知県日進市で児童養護施設と児童心理治療施設を併設した児童福祉施設「中日青葉学園」を運営しており、ファミリーホームや里親家庭などと連携し社会的養護が必要な児童への支援を手厚く行っています。

また、中日新聞社に協力し、大規模な災害に対して義援金を広く募集して、被災地へ届ける活動も行っています。

### 主な福祉事業

|         |           |                                                                                                      |
|---------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 福 祉     | 児童福祉      | 児童福祉施設に入所している子どもたち、ファミリーホームや里親家庭の子どもたちへの支援<br>交通遺児支援、母子・寡婦などひとり親家庭への支援<br>生活保護家庭の小中学生にお年玉を贈る活動 ※年末のみ |
|         | 心身障害児・者福祉 | 特別支援教育の作品展やスポーツ大会<br>特別支援教育振興のための研究助成金贈呈<br>障害者団体への支援、スポーツ大会や作品展などでの表彰                               |
|         | 高齢者福祉     | 老人福祉施設作品展、講演会など                                                                                      |
|         | 医療福祉      | 難病者団体に激励金を贈呈／難病団体、患者・家族会への支援                                                                         |
|         | 中日青葉学園    | 児童養護施設「あおば館」／児童心理治療施設「わかば館」                                                                          |
| 災 害 支 援 | 災害義援金・救援金 | 随時発生した災害に対する支援（義援金実績は下記一覧）<br>※現地の災害対策本部などへお届けします                                                    |
|         | 東日本復興支援金  | 東日本大震災で被災した地域の、行政でカバーできない福祉団体や被災者支援活動を行っている団体への支援<br>※義援金とは異なります                                     |

### 主な災害義援金実績（令和2年8月現在）

|             |                   |         |                |
|-------------|-------------------|---------|----------------|
| 阪神大震災義援金    | 平成 7年 1月          | 84,104件 | 5,790,979,873円 |
| 東海豪雨災害義援金   | 平成12年 9月          | 2,209件  | 421,966,342円   |
| 東日本大震災義援金   | 平成23年 3月～平成31年 3月 | 95,339件 | 9,088,915,451円 |
| 広島土砂災害義援金   | 平成26年 8月          | 802件    | 30,668,185円    |
| 熊本地震義援金     | 平成28年 4月          | 13,932件 | 1,091,554,693円 |
| 九州豪雨義援金     | 平成29年 7月          | 2,025件  | 75,293,523円    |
| 西日本豪雨義援金    | 平成30年 7月          | 9,240件  | 529,263,200円   |
| 台風19号義援金    | 令和元年10月           | 6,634件  | 259,360,432円   |
| 令和2年7月豪雨義援金 | 令和 2年 7月          | 2,740件  | 76,190,320円    |
| 東日本復興支援金    | 平成26年 8月～令和 2年 8月 | 1,382件  | 87,179,028円    |

### 各支部所在地

|                      |                                                                                    |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 中日新聞社会事業団本部          | 〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内<br>Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839       |
| 中日新聞社会事業団 北陸支部       | 〒920-8573 石川県金沢市駅西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内<br>Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831     |
| 中日新聞社会事業団 東海支部       | 〒435-8555 静岡県浜松市東区葉新町45番地 中日新聞東海本社内<br>Tel. 053-421-7711 Fax. 053-421-5987         |
| 中日新聞社会事業団 東京支部       | 〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社（東京新聞）内<br>Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3580-5452 |
| 中日新聞社会事業団 岐阜支部       | 〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内<br>Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010       |
| 児童養護・児童心理治療施設 中日青葉学園 | 〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164<br>Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315               |



過去の配分実績

第1回～第6回の配分先

|     | 所在県 | 団体名                                        | 活動内容                                                      |
|-----|-----|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 第1回 | 福島県 | 一般社団法人<br>ふくしま原発避難子供・若者支援機構<br>(たまきはる福島基金) | ふくしま原発避難子供・若者支援機構<br>・運営費                                 |
|     |     | NPO法人 アクセスホームさくら                           | 指定障害福祉サービス 就労継続支援B型<br>・備品購入費                             |
| 第2回 | 宮城県 | NPO法人 MMサポートセンター                           | 自閉症スペクトラム症を中心とした発達障害児の相談・検査・療育事業<br>・建物修繕費用               |
|     |     | NPO法人 アスイク                                 | 被災した低所得世帯の学習支援・居場所づくり事業<br>不登校の子どもを対象としたフリースクール事業<br>・運営費 |
|     |     | 社会福祉法人 山元町社会福祉協議会<br>山元町共同作業所              | 指定障害福祉サービス事業所<br>・建物修繕費用                                  |
|     | 岩手県 | NPO法人 愛ネット高田                               | 車両による福祉無償運送事業<br>介護保険事業(居宅支援事業、訪問介護事業)<br>・運営備品購入費        |
|     |     | NPO法人 かまいし共生会<br>グループホームかみくり荘              | 共同生活援助(精神障害者の自立支援のための生活援助)<br>・居室など改繕費                    |
|     |     | NPO法人「居場所」創造プロジェクト                         | 高齢者を中心とした居場所づくり事業<br>・運営費、備品購入費                           |
|     | 宮城県 | 一般社団法人 みやぎ連携復興センター                         | 震災復興に特化した中間支援団体<br>・事業運営費(人件費・旅費・研修参加費)                   |
|     | 福島県 | 一般社団法人 ふくしま連携復興センター                        | 震災復興に特化した中間支援団体<br>・事業運営費(旅費・会議費)                         |
| 第3回 | 岩手県 | NPO法人 いわて連携復興センター                          | 震災復興に特化した中間支援団体<br>・事業運営費(人件費・旅費・講師謝礼金・交通費)               |
| 第4回 | 宮城県 | NPO法人 仙台傾聴の会                               | 被災地での傾聴支援<br>・事業運営費(人件費・会場費他)                             |
|     |     | 一般社団法人 まなびの森                               | 被災地で増加する不登校児の居場所づくり事業<br>・事業運営費(人件費・会場費他)                 |
|     |     | 障害福祉サービス事業所 くじらのしっぽ                        | 障害者の就労継続支援<br>・修繕費(トレーラーハウス改築費他)                          |
|     |     | 東北大学福興youth                                | 東北大学の学生を中心とした被災地でのボランティア<br>・事業運営費(宿泊費・交通費)               |
|     | 福島県 | NPO法人 チェルノブイリ救援・中部                         | 福島県での原発被災者支援<br>・招へい旅費、印刷代                                |
|     |     | NPO法人 いわき自立生活センター                          | 障害者の就労支援・介護事業等<br>・軽トラック車両費                               |
|     |     | NPO法人 ビーンズふくしま                             | 不登校児や引きこもり児童の居場所づくり事業<br>・事業運営費(人件費・車輛リース代)               |
|     | 岩手県 | 一般社団法人 ほまれの会                               | 障害者就労継続支援B型事業所<br>・事業運営費(人件費・備品購入費)                       |
|     |     | NPO法人 いなほ                                  | 内陸避難者の孤立防止事業<br>・事業運営費(人件費・材料費・印刷代)                       |
|     |     |                                            |                                                           |

|     | 所在県 | 団体名                                        | 活動内容                                                                       |
|-----|-----|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 第5回 | 宮城県 | 一般社団法人<br>震災こころのケア・ネットワークみやぎ<br>からころステーション | 被災者の心のケア・障害者相談支援事業<br>・訪問車両購入費                                             |
|     |     | チャイルド工房                                    | 震災後の幼児遊び場確保、野外活動事業<br>・人件費                                                 |
|     |     | 東北大学陸前高田応援サークル ぼかぼか                        | 岩手県陸前高田市におけるボランティア活動<br>・事業運営費(人件費、旅費他)                                    |
|     |     | 一般社団法人 復興みなさん会                             | 仮設住宅・復興公営住宅のコミュニティ形成支援<br>・運営費 ・記録誌発行費                                     |
|     |     | 富谷傾聴の会                                     | 地域住民への傾聴活動<br>・備品購入費                                                       |
|     |     | 一般社団法人 ワタマスマイル                             | 福祉的居場所づくりと地域コミュニティ再生事業<br>・運営費(人件費、備品購入費)                                  |
|     | 福島県 | ARTS for HOPE                              | 被災児童・高齢者等へのアートに特化した支援事業<br>・運営費(人件費、備品購入費他)                                |
|     |     | NPO法人 南相馬サイエンスラボ                           | 被災地の風評被害払拭を目的とした稲刈り体験交流事業<br>・運営費(人件費、謝金他)                                 |
|     |     | NPO法人 チームふくしま                              | 福祉作業所への業務委託による障がい者の雇用促進<br>・運営費 ・備品購入費                                     |
|     | 岩手県 | いいのどんぐりの会                                  | 飯館村民と地域の方々の心と身体の健康を図る事業<br>・運営費(会場費、備品購入費他)                                |
|     |     | NPO法人 パクト                                  | 陸前高田市復興サポートステーションの運営<br>・運営費(人件費、備品購入費他)                                   |
|     |     | NPO法人<br>陸前高田まちづくり協働センター                   | 市民活動の相談支援、地域づくりの担い手の育成、担い手のつながりづくり<br>・運営費(人件費、備品購入費他)                     |
| 第6回 | 宮城県 | 一般社団法人<br>東北圏地域づくりコンソーシアム                  | 地域コミュニティの自立及び再構築の支援事業<br>・教訓集発行費                                           |
|     |     | NPO法人 仙台グリーンケア研究会                          | グリーンケアの実践及び普及啓発活動<br>・研修費(講師費、印刷費他)                                        |
|     |     | あじ島冒険楽校                                    | 被災児童・社会的養護下の児童への網地島招待事業<br>・事業運営費(宿泊費、交通費、備品購入費他)                          |
|     |     | 石巻復興きずな新聞舎                                 | 復興新聞の発行・配布事業、ボランティアの育成・受け入れ事業<br>・運営費(人件費、印刷製本費他)                          |
|     |     | けせんぬま森のおさんぽ会                               | 不登校児童の居場所活動、乳幼児親子支援事業、各種子育て支援事業<br>・運営費(人材費、消耗品費他) ・修繕費                    |
|     |     | 公益社団法人 3.11みらいサポート                         | 震災伝承、防災・減災活動<br>・事業運営費(会場費、講師費他)                                           |
|     | 岩手県 | 一般社団法人 フリースペース道                            | フリースクール運営事業<br>・運営費(人件費、家賃他)                                               |
|     |     | つむぐ                                        | イルミネーションやキャンドルを用いた追悼事業<br>・事業運営費(人件費、材料費他)                                 |
|     |     | 特定非営利活動法人<br>アットマークリアスNPOサポートセンター          | 地域社会に対するNPO活動への支援事業、まちづくりや地域活性化のための事業<br>・事業運営費(人件費、通信運搬費他)                |
|     | 福島県 | おおつち おばちゃんくらぶ                              | イベントやサロン開設など地域交流活動、大槌の魅力資源の発掘と情報発信、<br>手作り品を通じた地域内外の交流活動<br>・運営費(会場費、人件費他) |
|     |     | 一般社団法人 ちろる                                 | 避難者・高齢者支援事業、地域コミュニティ支援事業、<br>その他地域福祉向上のための事業<br>・事業運営費(人件費、会場費他)           |
|     |     | 希来                                         | 地元住民間の交流促進支援事業、小高区活性に関する事業<br>・事業運営費(業務委託費、印刷製本費)                          |



# チャイルドネットジャパン

宮城県

団体所在地

〒986-2121 宮城県石巻市渡波町1-5-16

Tel: 090-5760-8844

ロボラから  
インタビュー



## Q1. どんな活動をしてるのでござる？

東日本大震災後、「復興は待ってはいはだめだ、自分たちの手で始めないと!」という気持ちで、地域のお母さんたちが中心となって活動が始まりました。2013年10月、石巻市渡波町に「子ども未来図書館」を開館。子どものにぎやかな声であふれる図書館となっています。震災後の街づくり、被災した子どもたち・お母さんたちの居場所となれる活動を行っています。

## Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

震災から12年が経ち、今の子ども達は震災を経験していません。しかし当時の子ども達は、12年の時が過ぎ、大人となり、親となっています。その両方から聞き取り調査を行い、まとめることで、今後起こる災害への実証を伴う供え、防災へとつなげます。

## Q3. チャイルドネットジャパンのアピールポイントは？

私たちの拠点は図書館です。図書館と聞くと、静かに過ごす場所と思われると思いますが、私たちの図書館では、子どもの笑い声、話し声が絶えない場所です。それは、会話をすることで子どもたちの心のケアになるからです。「今日、学校でこんなことがあった!」「流行ってるダンス見せてあげる!」と、学年を超えて自然に交流できるのも、私たちのアピールポイントです。

## Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

震災から12年。「もう、そんなに時間が経ったのか」と思う事もありますが、被災者の心の復興は、何年過ぎたからもう終わり、という事はありません。少しずつ、進んだり戻ったりしながら、歩んでいます。今年は、そんな被災者の声を全国の防災に繋げていきたいと考えています。

## Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞでござる！

私たちにとってとても辛いのは、「忘れられてしまった」という事です。ご寄付という形で、「忘れないよ!」「共に、歩んでいこう!」という気持ちも伝えていただいていると思います。私たちは活動を通して皆様に「ありがとうございます」という気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



インタビューに答えてくれた方を  
紹介するでござる!

お名前 ..... 西澤 砂弥香  
役職 ..... 代表  
趣味 ..... クラシックギター  
好きな食べ物 ..... チョコレート



子ども達たちの居場所『子ども未来図書館』



絵本を読み聞かせるスタッフ



ハロウィンパーティー



みんなで学ぶ



手作りの万華鏡を覗く女の子



## ロボラから インタビュー



### Q1. どんな活動をしてるのでござる？

石巻圏域（石巻市、東松島市、女川町）に住む子ども・若者であれば、どんな人でも相談ができるワンストップ相談センターの「石巻圏域子ども・若者総合相談センター」や、さまざまな困難を抱える小学生～高校生の子どもの居場所として「石巻市子どもの学習・生活支援事業」を運営しています。また自主事業として、様々な理由で学校に行けない・行かない選択をした子どもたちが過ごせる、フリースクール「ほっとスペース」の運営。子ども・若者や地域の方が、目的がなくてもいつでも集えるフリースペース「タノマ」も運営しています。

### Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

主に小～高校生年代の子どもたちを対象に、様々な理由で学校に行けない、行かない選択をした子どもたちが安心してすごせる「ほっとスペース」を実施します。また、地域の様々な方と連携をして、石巻で居場所を作っていきます。

### Q3. TEDICのアピールポイントは？

TEDICは目の前の「〇〇（子どもの名前）さんにとって…」を考え続ける、「不登校の子」などラベリングをせずに一人の人として向き合うことを大切に活動し続けています。

### Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

2020年からコロナで、子どもたちが「ほっとスペース」に来られる日数や、時間が短縮されている状況でした。2023年からは活動日時を戻していき、子どもたちが安心して過ごせる場所を取り戻していきたいと思っています。

### Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる！

ご寄付をしていただき、ありがとうございます。ほっとスペースの運営や子どもたちとの関わりを通じて、地域で子どもたちを応援してくれる方々、見守ってくれる方々を増やしていきたいと思っています。



インタビューに答えてくれた方を  
紹介するでござる！

お名前 …………… 千葉 茉亜莉（ちば まあり）

役職 …………… スタッフ

趣味 …………… サウナ

好きな食べ物 …… 白米、鯖



学習の様子



全力の仮装でイベントを盛り上げる



子どもたちをサポートするスタッフたち



天気の良い日には外での活動も



和気あいあいと遊ぶスタッフと子どもたち



## ロボラから インタビュー

### Q1. どんな活動をしてるのでござる？

市民や企業等から、何らかの理由によって生じた余剰食品の寄贈を受け、行政や社会福祉協議会などを通して、生活に困っている世帯へ無償でお渡しする活動を行っています。また、災害復興公営住宅などで開催される子ども食堂や交流活動からのリクエストに応じて食品を無償提供しています。最近は環境負荷軽減の観点から、行政と連携して、食品ロス削減推進の啓発活動も行っています。

### Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

被災者を取り巻く生活環境は、家賃の負担や慣れない新しい生活環境など、安定した生活を取り戻すにはまだ道半ばです。そのような経済的な課題等を抱える世帯へ対し、社会福祉協議会等と連携して「食」の面のフォローを行う費用として活用させていただきます。

### Q3. フードバンクいしのまきのアピールポイントは？

2018年に任意団体として設立し、今年度設立から5年を迎えます。「もったいない、をありがとうに」をモットーとして、石巻市を拠点に宮城県北部の行政などと連携し、広域の市民の食のフォローを行っています。

### Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

まだまだ「フードバンク」という言葉も周知されていない地域において、誰でも「食にありつける」ことが出来る地域密着型の支援体制を構築して行きます。

### Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞでござる！

みなさまのご支援、感謝申し上げます。毎年、被災者支援活動に対する助成金も減少傾向にあるなか助成していただけることは、活動の必要性を認めて頂いたものと非常に嬉しく思います。引き続き私たちの活動等を当法人ホームページ等で広報して参りますので、ご覧ください。



インタビューに答えてくれた方を  
紹介するでござる！

お名前 ..... 佐藤 良子  
役職 ..... 事務局長  
趣味 ..... 読書、占い  
好きな食べ物 ..... 野菜類全般、きのこ



企業からの食品搬入作業



地元企業からの食品寄贈



温かい支援を橋渡し



食品パッケージ（詰合せ）作成風景



食品を手渡すスタッフ





のぞみ野あきまつり



みんなでお花見お茶っこ



## Q1. どんな活動をしてるのでござる？

震災後に造られたふたつの大規模集団移転地（2,000世帯、人口5,000人ほど）で、コミュニティづくり（サロン活動や健康維持活動の運営、集会所利用する住民サークルの運営サポート、自治会や子ども会の形成・運営・連携支援）や、生活相談の対応などにも対応しています。また、市内の災害公営住宅の運営のお悩み相談など、災害公営住宅の入居者支援も行っています。

## Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

子どもから高齢者までが一緒に食卓を囲める場（地域食堂）の運営と、食卓にあがる野菜を地域で育てる農園づくりにつかいます。また、地域の方で集会所に書籍をあつめて、図書館をつくります。

## Q3. 石巻じちれんのアピールポイントは？

地域の集会所の一室に事務所をおいているので、常に住民の生の声や状況に対応できること。また団体スタッフの多くが被災当事者であるため、当事者目線での地域支援が行えること。

## Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

コロナ禍の規制や、社会の認識は緩和されてきましたが、停滞してしまった人と人との交流を回復させるのは容易ではないと思っています。まずは、「人と関わるっていいな」「集まるっていいな」を地域に取り戻していくきっかけを作っていきます。

## Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞでござる！

ハード整備がひと段落して、変化が見えづらい復興の過程ですが、今も心を寄せていただくのがありがたい限りです。コミュニティをつくるというのは、一人の子どもが「この街で大人になったな」と感じられるくらいになるまで時間がかかるだろうと思います。これからも、見守っていただければ幸いです。



美味しいご飯を食べながら地域交流も



地域食堂準備の様子



地域食堂クリスマスの特別メニュー



インタビューに答えてくれた方を  
紹介するでござる！

お名前 ..... 田上 琢磨  
役職 ..... 事務局長  
趣味 ..... 山登り、  
中古CD・レコード屋めぐり  
好きな食べ物 ..... いかの塩辛、そば、ラーメン





# 一般社団法人 東北駆け込み寺

団体所在地  
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町2-3-28  
Tel: 080-2842-1474

宮城県



クリスマスリース作り



みんなの食堂で行った芋煮会



## Q1. どんな活動をしてるのでござる？

「たった一人のあなたを救う」をモットーに、東日本大震災の被災者の人間関係、家庭の悩み、職場の問題、DV、ひきこもりなど、さまざまな悩みを聴き、心をケアし、背中を押してあげる活動を展開しています。また、復興住宅でのみんなの食堂や読み聞かせ、コンサート、親子フェスなど、地域の人に喜ばれるイベントも定期開催しています。

## Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

悩み相談室では相談受付の電話料金や水道光熱費に使用し、イベントでは会場使用料などに活用します。管理費として事務スタッフの有償ボランティア費用に充てます。

## Q3. 東北駆け込み寺のアピールポイントは？

悩みを聴く相談員は「人の役に立ちたい」という心を持った無償のボランティアです。約150名在籍し、365日被災者の相談を受けています。年間約250件の相談が寄せられます。

## Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

現在の活動拠点は被災地の宮城県仙台市、石巻市、岩沼市、名取市関上です。令和5年度は岩手県盛岡市に岩手支部が開設され、宮城県気仙沼市に出張駆け込み寺を展開します。

## Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞでござる！

震災から12年が経ち風化が叫ばれる中、今も東北の被災地に想いを寄せてくださっている皆様の真心に元気をもらっています。ご支援に感謝申し上げます。



みんなの食堂石巻のメンバーたち



手をマッサージしながら悩みを聴くことも



悩み相談の場としてメディアでも紹介



インタビューに答えてくれた方を紹介するでござる！

お名前 …………… 織笠 英二  
役職 …………… 代表理事  
趣味 …………… 映画鑑賞  
好きな食べ物 …… フランスパン







## Q1. どんな活動をしてるのでござる？

東日本大震災と原子力災害による経験や教訓、地域の記憶を伝える活動をしています。震災の記憶がない世代が増える中でも、福島が抱える社会課題は長期的に続きます。同じ犠牲・悲しみを繰り返さないために、この経験をどのようなメッセージをもって、どのような伝え方で後世につないでゆくのか。東北だけでなく広島や水俣、沖縄などの地域からも学び、ともに発信しながら、原子力災害地における地域の在り方を考える機会を創出しています。

## Q2. 申請事業の内容を教えてください

災禍から再生の過程を経験した他の地域への視察や、視察報告会に必要な経費に活用させていただきます。視察参加者は、主に伝承に関心のある若者を対象としているため、旅費の一部を負担し、次世代の方がより伝承活動へ参画できるよう後押ししたいと考えています。

## Q3. 大熊未来塾のアピールポイントは？

大熊町内の帰還困難区域に含まれている場の伝承をしており、特にオンライン伝承では、立ち入りができない15歳未満の子どもたちを含む全国の方へ、震災と原子力災害の経験や教訓を届けています。

## Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてください

とても小さな団体ですが、お声がけいただく機会が着実に増えています。伝承活動を通じて、なにより大切な命が守られる社会を目指すとともに、「現代の豊かさが未来にもたらすものとは」という問いを投げかけます。

## Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる！

大熊未来塾は、帰還困難区域内での行方不明者の捜索活動から発展した伝承活動であり、多くの協力者により育まれてきた学びの場です。皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げますとともに、“声なき声”に耳を傾け、「大熊町から未来を考える」機会を、ともに共有できると幸いです。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる！

お名前 …………… 木村 紀夫  
役職 …………… 代表理事  
趣味 …………… スキーと草刈り  
好きな食べ物 …… とんかつと甘い物  
(最近は控え気味)



モニタリングポストと線量計の前で伝承をするスタッフ



オンラインでも伝承活動や報告会を実施



当時のままの熊町小学校を見学



遺骨収集を学ぶため沖縄へ視察



沖縄の佐喜眞美術館にて話を聞くスタッフ



## ロボラから インタビュー



### Q1. どんな活動をしてるのでござる？

原発避難者と若者、地域住民がつながる交流会を開催しています。畑作業に加え、ニュースポーツのポッチャやカロリーリングなど開催しています。就労支援活動の一環としてパソコン教室を運営しており、資格取得やキャリア相談など就職サポートも行っています。

### Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

農業交流会で使用する畑の肥料、苗、備品の購入費、料理交流会で使用する食材費、ニュースポーツの道具の購入費、担当職員の人件費に使用させていただきます。

### Q3. 福島就労支援センターのアピールポイントは？

就労支援活動だけでなく、地域活動に力を入れており、原発避難者との交流活動も5年が経過しました。農業交流会、料理交流会、運動イベントなど毎年変化を加えて活動しています。

### Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

今年はコロナウイルス対策が緩和される流れになりそうですが、引き続き気を付けながら楽しいイベントや交流イベントを企画し活動を行います。

### Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる！

ご寄付していただいたことにより、避難者の方の孤立を防ぎ、若者や地域住民との交流会を行うことができます。誠にありがとうございます。精一杯活動に尽力していきます。



インタビューに答えてくれた方を  
紹介するござる！

お名前 …………… 原 真理子

役職 …………… 理事長

趣味 …………… 旅行

好きな食べ物 …… 激辛ラーメン



自分たちで育てた野菜を収穫



野菜をたっぷり使った料理交流会



地域交流を大切にする住民とスタッフら



田植えを体験する住民たち



田植えから行ったお米を収穫



## ロボラから インタビュー



### Q1. どんな活動をしてるのでござる？

福島県のほか、山形県や宮城県を活動エリアとする中間支援組織であり、地域活動に取り組む市民や非営利団体の活動や組織運営などに対するサポートを行っています。また、東日本大震災・福島原発事故発生当初は仮設・借り上げ住宅自治会や住民の応援に取り組んだほか、2016年頃からは、避難元・避難先地域における震災後の新たな地域コミュニティ再生事業に取り組んでいます。

### Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

東日本大震災による津波被害と福島原発事故により、代表的な「複合被災地」となった福島県双葉郡浪江町請戸地区にスポットを当て、地区町民たちの声を取り。冊子を作り、全国に伝えると共に、町民とシンポジウムを開催します。

### Q3. 市民公益活動パートナーズのアピールポイントは？

法人設立当時から、取り組んだ事業は努めて記録を遺してきました。また、日頃の支援活動や取材などを通じて、県内外のさまざまな人・組織とのつながりを広く創っています。

### Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

今年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられることを受け、これまでの3年とは違った、新たな動き方を期待しています。人と触れ合い、思いをカタチにしたいと思っています。

### Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる！

このたびのご支援、本当にありがとうございます。3.11から13年目を迎え、次第に記憶が遠のくなか、多くの方々に「複合被災地」の人々の思いや願いを知っていただきたく、冊子として発信します。



インタビューに答えてくれた方を  
紹介するござる！

お名前 ..... 古山 郁 (ふるやまいく)

役職 ..... 代表理事

趣味 ..... まち歩き、  
地域特産物・工芸品探訪

好きな食べ物 ..... 関東炊き (関西風おでん)、鯛めし



NPO法人りょうぜん里山がっこう (福島県伊達市) でのワークショップ光景



地域コミュニティ再生支援・人材育成事業での視察研修で訪れた南相馬市の映画館「朝日座」の前で



事業実施に向け打ち合わせをするメンバーたち



非営利組織に対する「事業復活支援金」説明・相談会の光景



「請戸プロジェクト」のメンバー





## Q1. どんな活動をしてるのでござる？

岩手県陸前高田市内の東日本大震災における津波の最大到達地点に、桜を植える活動をしています。どこまで津波が達したのかを視覚的に残し、避難の大切さを後世に伝承するための取り組みです。この地域はもちろん、日本において津波で人の命が失われないようにすることを目的とし、市内の津波到達地点170kmに対し、10mに1本の間隔で植樹を行っています。目標は17,000本で、現在は2,052本（2022年12月末日時点）の植樹を終えています。

## Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる！

全国のボランティアや次世代を担う子どもたちと共に、植樹会を実施しています。植樹会の運営と、植樹地の所有者の許可取得・植樹後の育成管理に使用させていただきます。

## Q3. 桜ライン311のアピールポイントは？

防災減災のために植えた桜が、街を彩る景観としても育っていくことです。設立から11年、本当に多くのボランティア・学校に参加していただいていることも一つの特徴。今までに7,600名を超える方にご参加いただいています。

## Q4. 令和5年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか？

コロナの様子を見ながらの部分もありますが、地域の皆さま、共感し参加してくれる全国の皆さまとしっかり植樹を続けていきたいと思っています。

## Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる！

植樹、育成管理、そして桜の意味を後世に伝えていくという、長い時間が必要な事業です。機会があれば是非、植樹会にもご参加いただけたら嬉しく思います。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる！

お名前 …………… 岡本 翔馬  
役職 …………… 代表理事  
趣味 …………… 子育て・料理  
好きな食べ物 …… 鰯とウイスキー



植樹をする参加メンバー



植樹した桜の開花



活動を支え続けるスタッフたち



メンテナンスも大切な仕事



団体の活動を伝えるスタッフ



東日本大震災と中日新聞社



記憶を未来に

東日本大震災から11年。震災直後、荒廃した街並みに、被災者の笑顔が再び見られることを願って、被災地の復興を支援する。被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。

### 東日本大震災11年

離れても前を向いてます

東日本大震災から11年。震災直後、荒廃した街並みに、被災者の笑顔が再び見られることを願って、被災地の復興を支援する。被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。

### 中日新聞

2022年 3月11日(金)

さようなら

ロシアの侵襲 経済制裁 米の増産 小麦高騰に外食・食品苦慮 名古屋の高校生募金活動 東日本大震災関連 西浜地区 行き場なく 社説 特設公開電話 設置進む 被災地出身、バレーに出場 大塚心合 福島の今 いとも通り 過ごす父子

### 津波で犠牲 夫に伝えたい

知多に避難 福祉の仕事生きたい

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



津波で犠牲 夫に伝えたい

知多に避難 福祉の仕事生きたい

2022年3月11日付朝刊一面

### 大切なあなたへ思いはせ

東日本大震災11年

何でずっと感謝を伝えておかなかったんだろう

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



大切なあなたへ思いはせ

東日本大震災11年

2022年3月11日付夕刊一面

### 東北・関東大震災

災害義援金受け付け

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



東北・関東大震災

災害義援金受け付け

2011年3月12日付一面

### 義援金 3県に30億円

読者の心 届ける

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



義援金 3県に30億円

読者の心 届ける

2011年4月15日付一面

### 東日本大震災 義援金お礼

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



| 配分県 | 金額             |
|-----|----------------|
| 宮城  | 4,761,925,000円 |
| 岩手  | 2,338,175,000円 |
| 福島  | 1,761,622,096円 |
| 茨城  | 127,193,355円   |
| 千葉  | 100,000,000円   |

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。

2019年4月26日付三社面

### 義援金2次分32億円

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



義援金2次分32億円

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。

2011年5月21日付一面

### 読者の善意3次分17億円

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



読者の善意3次分17億円

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。

2011年8月26日付一面

### 「困ったときはお互いさま」

義援金事業

被災者支援センターで、被災者の声や思いを伝える。被災者の未来を共に考える。被災者の未来を共に考える。



「困ったときはお互いさま」

義援金事業

2017年12月22日付県内版